

かげ藪かげなど吉といへ共、全くの陰は悪し、半日二時之内陰有所吉、種子置にくき物也、又種子取時分を大事にす、今大略は三霜四霜あて、取たるよし、扱生姜は遅く座取て、八九月迄も子を生ず、其若根はいまだ實いらす、其不熟なるを同じごとく取置故、それより朽る、又朽すともそれは種子にならず、それをより分て、實のよく入たるを種子にすれば吉、夏秋早の年には座取遅し、故に實不入、其年の生姜は腐安し、夏中雨繁く、秋早の年には吉、可心得、一唐苛 肥たる土に早く植て吉、是も玄やうが唐胡麻などのごとく、末久敷實のるゆへ、遅く植ては實少し、早ければいか程も實多くなる、種子は七八月取、二月始に植、

〔農業全書〕菜四蓋

玄やうがはすぐれたる上品の物なり、論語にも不撤して食すとあり、史記にも廣くうへて、其利の過分なる事を載たり、うゆる地は、細沙の肥地に宜し、深く耕し糞を多くうちて、度々犁返し、塊少もなく、縦横四五遍もかき熟しをき、三月うゆる時、又かきこなし、さて種子の疵なく、芽の少出んとするを分て、指三つのふとさ程を一かぶとし、がんぎを間一尺ばかりをきて、深く切ならびの間五六寸にしてうへ、土を少おほひ、其上より馬屋ごゑのよかれ熟したるを、四五寸もおほひ、少培ひ置べし、さて芽立少出ると、芸り中うちし、人糞油糟は云に及ず、馬糞麥ぬかなどを厚くおほひ、中うち培ひ段々して、後は高き所を溝のごとくし、萬手入をよくすれば、利潤他の作り物の及ぶ物にあらず、されども早に痛み、又寒氣のつよき所、又は濕氣のつよきをばにくむゆへ、日あてのつよき所ならば、六月は日棚をかき、蘆す、きなどを、葉ながらあみておほひ置べし、濕氣つよきは畦を高くし、溝を深くして、濕をもらすべし、ひでりに早くいたみ、又濕氣をも嫌ふ物なるゆへ、初うゆる時、玄やうが鳥はよく吟味し、日當つよからず、濕はもれやすく、沙がちなるによしと知べし、さて四五月芽立漸くさかへ、玄げりて後、竹のへらにて根の一方を握、蓋母をもぎ取、